

# 景況レポート

(3月分・情報連絡員80名)

## 非製造業が悪化 ～景況DI値は僅かに後退～

### 【概況(全体)】

3月分の県内景況は、前年同月と比較して景況が「好転」したとする向きが6.3%(前回調査10.0%)、「悪化」が35.0%(同37.5%)で、業界全体のDI値は-28.7となり、前月調査と比較し1.2ポイント下回った。

全国及び東北・北海道ブロックとの比較では、非製造業の景況DI値が東北・北海道ブロック平均を上回っているものの製造業が低調だったことから、全体の景況DI値は全国及び東北ブロック平均を3ヶ月連続で下回る結果となった。

### 【業界別の状況】

鉄鋼・金属が引き続き好調を維持しているものの、小売業、サービス及び建設業で好転割合が減少した。生コンクリートや金属加工が悪化に転じ、食料品は相変わらず苦戦を強いられている。

原材料価格、燃料の高騰や需要の停滞のほか、今後の消費増税による影響も懸念されるなど、今後の業況については引き続き慎重に見極めていく必要がある。

### ＜全国及び東北・北海道ブロックとの景況DI値の比較＞

	秋田県	全国	東北・北海道
全体	-28.7	-23.5	-27.5
製造業	-34.4	-24.8	-30.3
非製造業	-25.0	-22.5	-26.0

### ＜景況天気図＞

項目	業界の景況	売上高	収益状況	販売価格	取引条件	資金繰り	雇用人員
製造業							
非製造業							

### 【凡例】

快晴 30以上  
 晴れ 10以上 30未満  
 曇り 10以上 30未満  
 雨 10未満  
 雷雨 30以下

### 【天気図の見方】

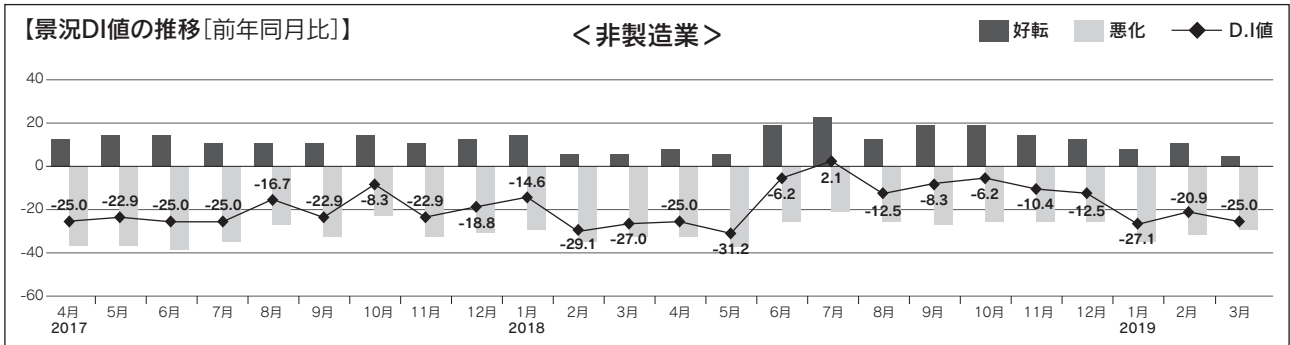
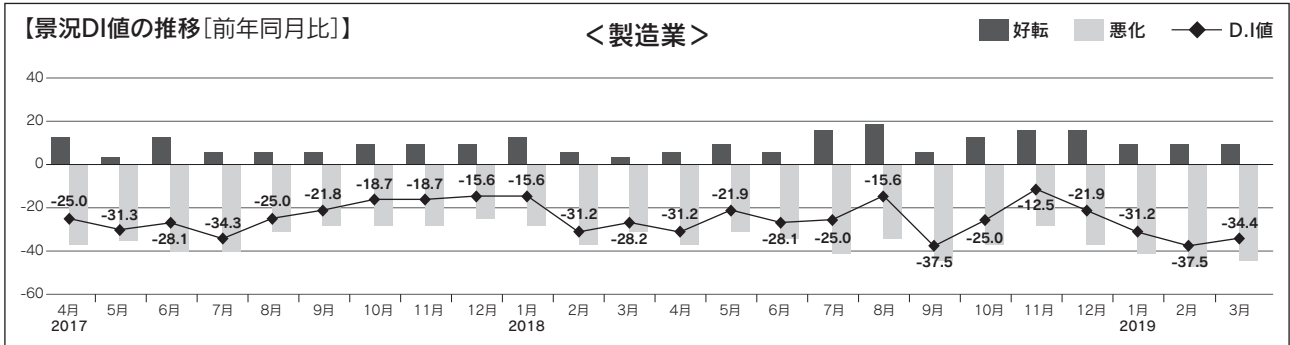
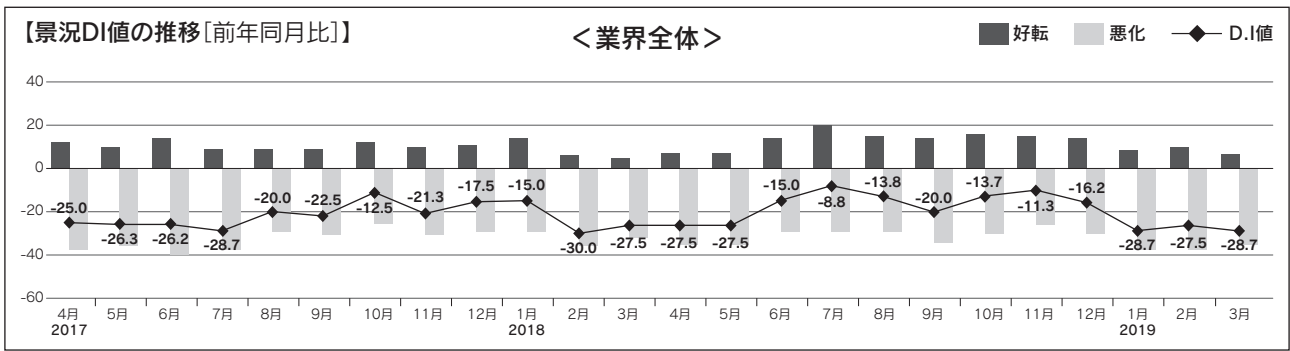
前年同月比のDI値をもとに作成しています。

※DI値とは、Diffusion Index(ディフュージョン・インデックス)の略で、増加(好転)したとする企業割合から、減少(悪化)したとする企業割合を差し引いた値です。

### 【業界の声】 ～製造業～

(回答数：32名 回答率：100%)

食料品 (パン)	1月、2月より若干良化している。スーパー関係の販売が好転しているが、原料費、ガソリンの値上げが収益を悪化させている。
食料品 (製麺)	原材料・包装材料・石油製品他、仕入れ単価の高騰や消費の低迷などで厳しく、価格改定も思うようにできない状況である。
繊維工業 (繊維)	アパレルの販売実績が振るわず、追加生産、新規生産の仕事量の減少があり、機械設備、生産労働者の過剰感が散見されるようになっている。(県南地区)
木材・木製品 (一般製材)	1月～3月は原木の出材量が安定し、原木在庫量は前年同期の123%と上回り、製品の注文も3月は地場(県内)が回復し売上高も前期を上回った。収益面は、原木価格が高止まりの中、製品価格は据置きが続き、景況好転の実感はない。生産量は原木の凍結も解消し、製材スピードも通常に戻り安定している。
木材・木製品 (外材)	1、2月に続き、秋田港に北洋(ロシア)産カラマツ材1船3,065m <sup>3</sup> の入港があった。首都圏の針葉樹合板の荷動きは落ち着き、価格ともに通常水準となっており、昨年のような合板の不足感は解消されて在庫水準も適正な規模となっている。
印刷	年度替わりの需要期ではあるが、点数・量とも回復を実感するに至っていない。低価格の発注・受注は依然として改善されておらず、用紙の値上げと製造・在庫調整のため用紙の品薄が発生している。(中央地区)
窯業・土石製品 (生コンクリート)	3月の出荷数量は前年同月比98.3%となり、4月～3月累計では前年比118.9%となった。昨年度の反動から2018年度の出荷数量は伸びたが、2019年度は秋田中央地区を除いて大型工事が見当たらない。2019年度の出荷想定は582,000m <sup>3</sup> (前年比86.9%)と大幅に減少する見込みである。
鉄鋼・金属 (鉄鋼)	受注は増加傾向にあるものの、昨年来懸念されていたハイテンションボルトの不足で工期等に影響が出ており、深刻な状況が続いている。見積りは大小を問わず増加傾向にある。
一般機器 (金属加工)	受注面では、大手取引先の在庫調整等がみられ、総じて下降傾向であり、先行きが不透明である。材料価格は横ばいで推移している。



【業界の声】 ~非製造業~

(回答数：48名 回答率：100%)

卸売業 (青果)	売上高は前年同月比85.0%で推移した。この時期、青果物の主力産地である関東、関西、九州等での生産が順調で、特に野菜は産地からの出荷量が豊富、かつ安定した状況が続いた。相場も安値が継続し、相場にメリハリが無く消費者の消費意欲喚起に繋がらず、販売が低迷した。
卸売業 (米麦卸)	平成30年産米の主食用米の販売進捗率は57.5%となり、2月とは違い3月は順調な販売となった。毎月引き取りペースが乱高下する不思議な年となっている。
小売業 (石油)	ガソリンの小売価格は1ℓあたり147円30銭で前月比2円80銭、軽油は130円10銭で前月比2円50銭、配達灯油18ℓは1,637円で前月比19円とそれぞれ値を上げた。2月後半原油価格が上昇し、元売仕切価格が値上がりし小売末端市況も値上がりに転じた。
小売業 (花卉)	3月は卸の売上額、仲卸の買い上げ額は1割以上の減になっている。組合員・員外は前年並みの仕入額であるが、年間を通して1割近く減となっている。需要の停滞が続いており、花業界は依然厳しい状況が続いている。
サービス業 (自動車整備)	自動車検査台数実績は、全体では前年同月比で5.3%の減少となった。内訳を見ると登録車が7.6%の減少、軽自動車も2.5%の減少となった。平成30年度全体の検査台数実績は対前年比で2.7%の減少と平成28年度から減少傾向にある。
建設業 (一般土木建築)	建設業全般で人手不足が続いていることで、新規受注が思い通りにできなくなっている。
建設業 (電気工事)	公共工事も全くなく、一般住宅受注件数も減少で電気使用申込件数も前年より約20%減である。
運輸業 (トラック)	例年であれば3月は繁忙期であるが、荷動きが非常に悪かった。業種によっては売上の増加した輸送品目もあるが、全体的に低調であった。売上・収益ともに前月並みに推移し、前年同月比でも前年並みである。3月の燃料価格は値上がりし、高値で推移している。(県南地区)
その他 (砂利)	年度末の工事完了等、例年どおりの骨材の出荷量であったが、今年はリサイクル材の在庫不足でバージン材の出荷が増加した。(県南地区)